

大学等名 天理大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

全学教育推進会議・全学教育推進機構

(責任者名) 島田 勝巳

(役職名) 副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全学部の学生が履修可能な選択科目として令和5年度に開設した「データサイエンス・AI 入門」は、履修者が9名(履修率0.3%)で、その全員が単位を取得した。令和6年度からは人文学部及び国際学部において1年次の必修科目、体育学部及び医療学部においては総合教育科目として選択可能な科目となり、履修者は275名(履修率10%)に増加した。令和7年度からは「データサイエンス・AI 入門」が教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目となり、履修者は635名(履修率18.2%)とさらに増加した。今後、履修率・修得率を確認、評価していくことで、本プログラムの履修・修得状況の改善に努める。</p>
学修成果	<p>「データサイエンス・AI 入門」の具体的な到達目標や授業計画はシラバスに明示している。学修成果の把握に関しては、本学の教育研究支援課が全ての科目において年2回、春学期と秋学期の授業終わりに実施している「学生による授業評価」アンケートや卒業時に実施している「卒業生、修了生アンケート」の調査を活用し、科目の到達目標に対する学生の理解度や達成度、授業評価、学習の自己評価などを把握している。また、結果を担当教員にフィードバックすることで、本プログラムの改善・向上に活用している。</p> <p>令和7年度に実施したアンケートでは、「授業を受けて新しい知識や技能が得られ、問題意識や関心が高まった」や「今後の学習や研究などの学習生活、将来の仕事などの社会生活に役立つ授業であった」、「総合的に判断して、満足のできる授業であった」の項目で9割以上の受講生が「強く思う」または「そう思う」という肯定的な回答をしており、令和6年度と同様に十分な学修成果があったと思われる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>令和7年度に実施したアンケートでは、「授業内容のレベルについてどう思いますか」に対して3割程の受講生が「高すぎる」または「やや高い」と回答したが、「教員の説明はわかりやすかった」や「教員は質問や発言に適切に対応していた」の項目で9割以上の受講生が「強く思う」または「そう思う」という肯定的な回答をした。授業内容や授業レベルは令和6年度と同じであるが、授業レベルが高いと感じた学生が若干減少したのは、授業後の質問対応や復習用の課題を課したことで学生の理解を促すことができた結果と思われる。「授業を受けて新しい知識や技能が得られ、問題意識や関心が高まった」や「今後の学習や研究などの学習生活、将来の仕事などの社会生活に役立つ授業であった」、「総合的に判断して、満足のできる授業であった」の項目では9割以上の受講生が「強く思う」または「そう思う」という肯定的な回答をしており、データサイエンス・AI への興味が増したと思われる。回答率向上のために、今後も工夫を検討する。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>現在は後輩へ推奨する仕組み作りを積極的に行っていないが、「学生による授業評価」アンケート項目の「授業を受けて新しい知識や技能が得られ、問題意識や関心が高まった」や「今後の学習や研究などの学習生活、将来の仕事などの社会生活に役立つ授業であった」に対して9割以上の受講生が肯定的な回答をしており、後輩や他の受講生への推奨度は十分に高いと思われる。データサイエンスの知識・技能の重要性を学生に広く伝え、履修率の向上を図るため、今後、履修者・単位取得者のインタビューなどの記事をHP やパンフレットに掲載するなど積極的に広報活動を行い、次年度生や未履修生への推奨に活かすようにする。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>令和6年度から「データサイエンス・AI 入門」は人文学部及び国際学部において必修科目となり、令和5年度の0.3%から10%まで履修率は増加した。「データサイエンス・AI 入門」が令和6年度に新設された「社会調査・データサイエンスプログラム」に取り入れられていることや、令和7年度からは教員免許取得に必要な科目となったことから、令和7年度の履修率は18.2%まで増加した。体育学部及び医療学部においては選択科目であるが、履修者数・単位修得者数の向上を図るため、新入生ガイダンスやオリエンテーションで積極的な周知に努めるとともに、全学教育推進機構総合教育センターを中心に履修率を向上させる方策を検討やプログラムの評価・改善の取り組みを引き続き行う。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは令和5年度に開設されたため、現時点で修了した卒業生はならず、進路調査や活躍状況調査、企業からの評価は実施していない。本学のキャリア支援課は進路調査・活躍状況調査について卒業時に「卒業生、修了生アンケート」を実施している。このアンケート結果を活用し、今後、本プログラムを修了した卒業生の進路先調査、採用状況を確認し、プログラムが目標とする人材育成の状況の評価する。また、卒業生を輩出後は、卒業生に実施している「卒業生対象キャリアアンケート」や就職先の企業に対して実施している「企業等対象キャリアアンケート」の調査結果も活用して、企業のニーズや企業からの評価を踏まえた改善を行う。</p> <p>本プログラムは、具体的な事例で学生の興味を引くようにする授業構成や、幅広い分野を網羅できていることが望まれる。今後、データサイエンス関連業務に従事する管理職・研究員の方による講義の導入や、教育プログラムの内容・手法などについて専門家による産業界からの視点を含めた意見を取り入れ、授業内容や授業の進め方を改善するなどの取り組みを引き続き検討する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>データや AI が社会でどのように活用されているか、身近な例を積極的に用いて説明をし、数理・データサイエンス・AI を学ぶ楽しさが得られるように努めている。また、学ぶ楽しさを実体験できるようにパソコンを用いた AI・データ解析の演習を行い、身近にある様々なデータを実際に扱うことで、学び始めたばかりの学生にも親しみやすく、興味ももて、基礎学力から実用的、実践的な力が身につくように工夫している。学ぶことの意義については、データサイエンスや AI に関する知識や技能が社会でどのように活かされているか、また今後どのように必要とされるかなどについて説明を行い、学生自身に実感させるよう取り組んでいる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>FD 委員会が中心になって実施している「学生による授業評価」アンケートにおける授業内容の理解度の評価や授業の実施方法に関する評価を分析するとともに、単位取得状況と照らし合わせて、授業の内容・水準が適切に運営されているか、学生目線での分かりやすい授業を実施するよう、組織的に連携して改善・向上に努める。令和5年度に実施したアンケートの結果を踏まえ、令和6年度はテキスト教材、授業内容、実施方法の見直しを行ったが、「授業内容のレベルについてどう思いますか」のアンケート項目で、4割程の受講生が「高すぎる」または「やや高い」と回答していた。令和7年度は、小テストなどを行い、理解不足である学生については別途指導を行うとともに、毎回の授業での課題提出の徹底や復習用として授業内容に関する動画の配信などを検討し、丁寧な疑問解消に努めたことで、前年より減少したもののまだ3割程の受講生は授業レベルが「高すぎる」または「やや高い」と回答している。令和8年度は令和7年度と同様のやり方で、授業のレベルは落とさずに、課題などで何度も繰り返し復習し学習させることで、学生の理解が深まるように努めたい。</p>